

商品価値に配慮した材の取り扱いについて (トビ傷を防ぐための考察)

下呂営林署 下呂貯木場 林 喜 芳

1. はじめに

最近における木材価格については、昨年の夏にヒノキを中心として異状な急騰を見たが、その後は元の価格に戻るなど不安定な市況動向にある。このような現状の中で、私達生産・販売に携わるものとしては、良い製品を有利に買っていただくため、木材の需要動向及び、業界のニーズを把握し、付加価値の向上を図って収入の確保増大に努力しているところである。

当貯木場においては、色、艶がよく、香りが高い銘柄として、需要人気を誉めている東濃ヒノキ柱材を主体に生産・販売しており、その材の取り扱いには細心の注意をはかり、有利販売に心がけているところである。

そのため、次の点に心がけ実行している。

- (1) 有利販売に促したきめ細かい選別・桧積を実行する。
- (2) 1本1本を商品としての認識を持って丁寧な材の取り扱いを行う。
- (3) ショールームという気持ちで環境整理はもとより、誠意ある接客を行う。
- (4) 採材についての指導要望は、すみやかに現場に反映させる。
- (5) 製品管理を行い品質の低下を防止する。
- (6) 新しい産地材は試験挽し貯木場に展示する。

又、情報収集のため、市売業者や製材業者へ積極的に出向いている。その課程で、営林署の材を買う時は、トビ傷があるのではないかと不安があり、それが材価にも影響している事実を把握した。(例えば、4寸角に柱を挽いたとき、トビ傷がでると3寸5分角の柱に挽き直さなければならない。)又、私は今迄天然木等比較的大径材を取り扱っていたこともあり、トビ傷についての関心が薄かったが、当貯木場に勤務するようになって、トビ傷が商品価値に与える影響をより強く認識した次第である。

2. 原因

トビ傷の防止については、従来から木口より30cm以内に打つなどの指導をしてきたが、山元盤台やトラック積込等の木直し作業では、仕事のしやすさから材の中心部に深く打ち込む事が比較的多く、又、材を自然に据えると節のない面が上になりやすく、そこへトビを打つ場合が多い

など、実行面で指導どおりいかない実態もあった。そこで、トビ傷の状況と影響について調査を行い、その防止対策について検討した。

3. 調査内容

(1) トビ傷の価格に及ぼす影響

例えば、18cm丸太で1材面無節の4寸角を挽いた場合、柱1本当たり約1万5千円で、それを3寸5分角に挽き直した場合、1本当たり約1万2千円となり、約3千円の価格減となる。仮りに、1m³の18cm丸太から柱が10本取れる場合、単純計算で約3万円の差が出ることとなる。

(2) トビ傷の出方の特徴

- ① 柱の角に多く出る。
- ② 柱の角より1.5cm中程に時折出ている。
- ③ 節のない面に多く出ている。

(3) 柱の挽き方の一例(別図参照)

このように製材工場において

- ① 節が出ない面は浅く製材する。
- ② 柱の芯は樹心よりあまりずらさないように製材する。

と、いうことがわかった。

4. 防止対策

(1) パンフレットの作成(別図参照No2)

生産現場や運材業者に配付し注意喚起を行った。この結果、トビ傷の柱に与える影響の大きいことが作業者に理解され、以前にも増して慎重な材の扱いを行うようになった。

(2) トビの改良の実行(別図参照No2)

① 改良に当たっての留意点

- ア トビ穴が深くならないこと。
- イ 安全対策上問題がないこと。
- ウ 使用しやすいこと。

② 改良内容とその考え方

従来のトビにスライドするようにストッパーを取り付けた簡単なものである。

調査結果より、柱に挽いた時影響が出るトビの打込み深さは、

- ア 丸太の径20cmでは1.4cm

イ 丸太の径22cmでは2.4cmである。

このことにより、トビの打込み深さは、皮の厚さを考慮し1.5cm以下でなければならないという結果を得ている。このトビは、取り付けたストッパーの働きで、打込み深さは最低1.5cm迄の深さに調整でき、丸太径20cmから22cmの柱材にはトビ傷がでないと確信している。又、トビの先がけ時には、ストッパーをはずすことも可能である。

現在は貯木場での試用であるが、今後安全対策を検討し、さらに改善を加え使用場所の拡大をはかっていきたいと考えている。

5. 実行結果

防止対策を、今後も徹底し定着することにより、

- (1) 「丸太は商品」という意識が、各作業者にさらに浸透し、トビを打つ位置を考えるようになり、材の取り扱いが丁寧になる。
- (2) 今後トビの改良と拡大を図っていくことにより、下呂営林署の材は、安心して購入していただけのものと考えている。そのことが、ひいては有利販売につながっていくと確信している。

安全面については、現在貯木場で使用している限りではトビが抜けやすいという事はないが、盤台作業等各現場での安全性についてもさらに検証が必要と考えている。

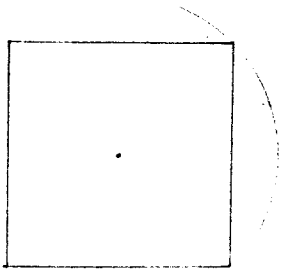
6. おわりに

厳しい林業の現状の中で、決して受け身にならず材の取り扱いはもとより、材価の低下を招くマイナス因子を一つ一つ排除するため積極的に知恵を出し、限られた資源の有効活用を図り、併せて収入の確保に努めていきたいと考えている。

今後とも、皆様方の御指導・御鞭撻をよろしくお願い致します。

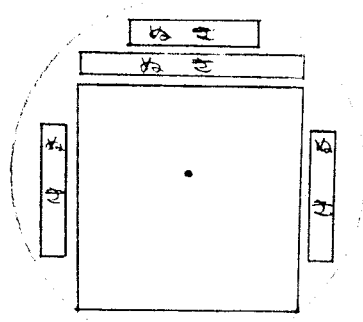
別図1 柱の挽き方の一例

16cm



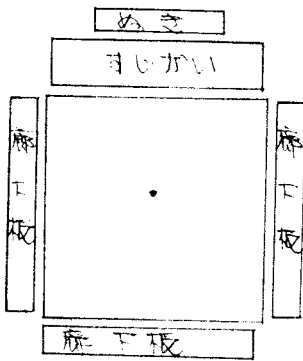
節のない面

18cm



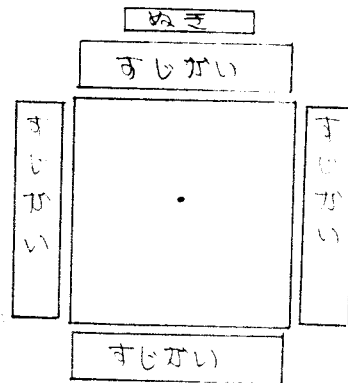
節の両い面

20cm



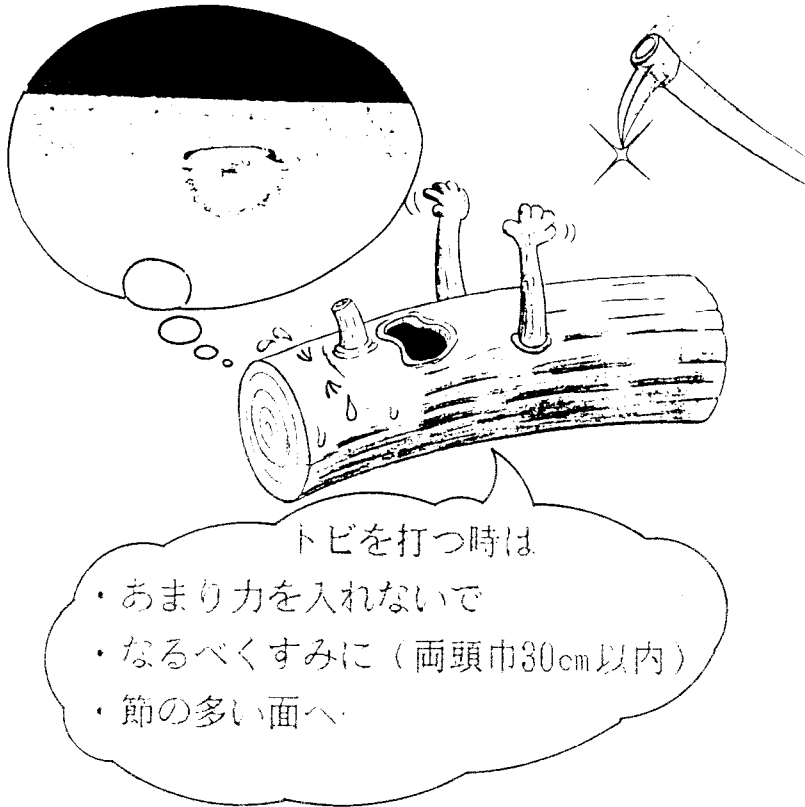
節の両い面

22cm



節のない面

別図2 丸太は商品、トビ傷に注意



下呂営林署 下呂貯木場

別図3 トビの改良

